

ほほえみの年輪をかさねて

第49回全日本こけしコンクール

全国各地のこけし工人が伝統の技と美しさを競い合う「第49回全日本こけしコンクール」が、5月3日から5日までホワイトキューブを会場に開催されました。



▲たくさんの人でにぎわう会場

コンクールには、全国延べ205人の工人から975点のこけしや木地が、会場には、伝統こけしの実演・販売のほか地場産品まつりなどの各種催しが併設。3日間で市内外から約4万6千人の来場者でにぎわいました。

内閣総理大臣賞



春の風にのって
(三本組)

宮城県(白石市)
加賀沼 昌行さん

この作品は、保存状態の良いミズキを用いて頭部とすそに配置し、樹皮を残したまま別のミズキを用いて外とうに見立てた、発想の優れた作品です。かわいらしい表情をした大中小の三本を組み合わせ、頭部の形態や髪型などにわずかな変化を持たせ、控えめに抑えたマフラーの色と模様がアクセントとなってほのぼのとした温かさを感じさせます。

技術的には、加工を施さない、丸のままの素材が割れるのを防ぐため、頭部とすそを胴体に組み合わせるときにしんを削る工夫をして仕上げています。素材な味わいと懐かしさを漂わせた作品です。

受賞おめでとうございます 市内在住の受賞者 (敬称略)



▲内閣総理大臣賞を受賞した加賀沼さん

- | | |
|------------|--------|
| 内閣総理大臣賞 | 加賀沼昌行 |
| 国土交通大臣賞 | 六郷 仁美 |
| 中小企業庁長官賞 | 渡辺 邦彦 |
| 宮城県知事賞 | 佐々木美穂 |
| 福島県知事賞 | 鎌田 孝志 |
| 山形県知事賞 | 新山 学 |
| 札幌市長賞 | 新山 吉紀 |
| 海老名市長賞 | 小形 律子 |
| 福島商工会議所会頭賞 | 柴田 栄子 |
| 山形商工会議所会頭賞 | 高橋 達郎 |
| 米沢商工会議所会頭賞 | 加賀沼勝子 |
| 宮城テレビ放送賞 | 新山真由美 |
| エフエム仙台賞 | 相原 英雄 |
| 仙台銀行賞 | 佐々木ひろえ |
| 東北電力賞 | 佐々木克己 |
| 白石市観光協会賞 | 高橋とし子 |

1,200人を超える大パレード! 今年の春祭典は暑く! そして熱かった!

白石市民春まつり

5月3日、毎年恒例となった本市の春の祭典「白石市民春まつり」が開催されました。

風間市長を先頭に行われた「大パレード」には、市内20団体の太鼓山車やみこしのほか甲冑工房「片倉塾」や片倉鉄砲隊など、1,200人を超える皆さんが参加しました。



▲もちまきで大人気! 建設職組合のみこし

今年のパレードには、ダンボールでよろいやかぶとを製作して春まつりに参加している甲冑工房「片倉塾」

の塾生が、大崎市で同様の甲冑工房「大崎塾」を平成17年に設立。製作した甲冑とともに22名の塾生の皆さんに参加いただき、春まつりを盛り上げてくれました。



▲勝ちどきを上げる大崎塾の皆さん

また、すまいるひろばでは、白石市消防団伝統階子乗り隊による演技が行われ、青空に向かって立てられたはしごの上で、日ごろの厳しい訓練で磨き上げられた多くの技を披露し、沿道の皆さんから大きな拍手が送られました。



▲素晴らしい技を披露

白石城本丸では片倉鉄砲隊による演武が披露され、今年も暑くそして熱い祭典となりました。



▲白石城での片倉鉄砲隊の演武

第5回パンフラワー作品

(5月11日~13日、壽丸屋敷)

パンフラワー教室主宰の山本紀子さんとその門下生の皆さんが心を込めて制作した作品80点を展示。期間中たくさんの人が会場を訪れ、美しい作品の数々に見入っていました。



▲繊細で温かみの漂う、美しい作品の数々

小原地区の皆さんが清掃活動を実施

(4月25日、小原地区)

小原地区の皆さんと小原温泉旅館組合やスパッシュランドしろいしの職員の皆さんが参加し、本格的な観光シーズンを前に地区内のごみを拾い集めました。



▲小雨が降る中、ごみを拾い集める参加者

中学生サッカー交流大会

(4月28日~5月4日、白石川サッカー公園)

白石サッカー協会が主催した大会には仙南地区中心に県内から12校が参加。市内の中学校同士の対決となった決勝では東中学校が白石中学校を2対1で破り、見事優勝しました。



▲激しいボールの奪い合いとなった決勝戦

ある日、テレビ局の取材を受けました。後日その放送を見ると、自分の声自分で思っている声と違うことに驚きを感じました。自分の声を頭がい骨で聞くのと耳で聞くのでは聞こえ方が違うという話を聞いたことがありましたが、実際に体験すると変なもので。自分の声は低い方だとは思っていましたが、ここまで低いとは……(笑)

あまりにも気になったので職員に確認したところ、「はい。市長の声で間違いありません!」とのこと。「うーん……」としか言いようがなく、本当に妙な気分になりました。皆さんはそんな経験がありませんか?

や心の声など。普段の生活の中で自分の周りを電波のように飛びかうさまざまな声を、ふと感じることがありませんか? 時には文字などに形を変えて、視覚からも入ってくる場合があります。それらの声に喜びを感じたり、励まされたり、悩まされたり、惑わされたり、気付けられたり、打たれたり、私たちは一喜一憂しています。情報過多な現代社会では、どちらかというとその声に困惑する場面が多いかも……。一方、子どもたちの元気な声や井戸端会議の明るい声

風間市長の「虫の音」や「声」

が街中や地域からだんだんと減ってきているように思います。そういった声は地域活力のバロメーターだと思います。とても寂しさを感じます。お祭りや行事などでは楽しそうな声か迎りを包み込んでくれるのですが、それもいつか街中や地域からだんだんと減ってきていくかもしれません。そのときだけで持続的なものがないのが残念です。だからこそ人口増加と交流人口の拡大が必要なのです。元気で楽しい声が必要です。そして五感で感じられる活気ある故郷を共創していきましょう!

から出す音で、声帯の振動を伴う呼吸のことです。旧字では「聲」と書きます。声は、石板をぶらさげたたいて音を出す「磬(ケイ)」という楽器を描いた象形文字で、「爰」は、磬をたたく棒を手に持つ姿です。最後に「耳」を加えて磬の音を聞きさすまを指し、広く耳をうつつ音響や音声を指します。耳で聞く声のほかに、心の中で幼なじみの七回忌を迎えました。毎年命日には仲間たちと墓に集まり、おのおのが彼と心の中で会話

します。悩みなどを問い、彼からの返事を心で聞きます。そして気持ちを新たに次の生活に進んでいくのです。声は情報の発信源だけに大切であり、ありがたいものです。これからの「声」を聞く「耳」も持ち続けてまいります。話は変わりますが、「赤の他人」とよく言いますが、なぜ青や黄色ではなく、「赤」なのでしょう? (5月号の答え)